

平成29年度第2回加美町総合教育会議議事録

開催日時 平成29年12月14日（木曜日）
午後1時30分～午後3時00分

開催場所 加美町役場3階会議室

出席者 加美町長 猪股 洋文
加美町教育委員会委員長 大場 幸 同 委員 田中 美知子
同 委員 鎌田 稔 同 委員 大宮 信彦
同 教育長 早坂 家一

事務局 加美町副町長 吉田 恵
総務課長 佐藤 敬 教育総務課長 二瓶 栄悦
同 課長補佐 川熊 裕二 同主幹兼教育総務係長 太田 裕二
体育振興室長 浅野 善彦 同室長補佐兼体育振興係長 佐々木 功
生涯学習課長補佐 鎌田 征 総務課長補佐 伊藤 一衛

議 題

平成30年度予算編成に向けた教育施策に関わる協議

午後1時30分 開会・開議

○佐藤総務課長 只今より平成29年度 第2回 加美町総合教育会議を開会致します。本日進行を務めます、私、総務課長の佐藤でございます。よろしくどうぞお願い致します。

それでは初めに、猪股町長よりご挨拶を頂きます。

○猪股町長 みなさん、こんにちは。お忙しい中、皆様にはご出席いただきありがとうございます。

12月議会では学力向上や道徳教育などの一般質問がありましたが、議員の意見を受け止め対応をよろしくお願ひいたします。また、中新田公民館の建設をはじめ、博物館の問題など生涯学習課に関連することや体育振興室では、カヌー場の施設の充実に取り組み、障がい者の利用も可能とする整備を推進するようお願ひします。

2020年には東京オリンピックが開催されますが、加美町のカヌー競技場が障害者カヌーの拠点として、パラリンピック選手団の誘致も考えておりますのでよろしくお願い申し上げます。

また、大崎地域が世界農業遺産に認定されることが決まり、教育にどう取り入れていくかが重要となってまいります。加美町の音楽のまちづくりが認められ総務大臣賞を受賞することになりましたが、未来を担う子供たちのためのまちづくりが今後、ますます重要になってまいりますのでよろしくお願いしたいと思います。以上です。

- 佐藤総務課長 ありがとうございます。それでは直ちに議事に入りますが、それでは町長の進行で会議を進めていただきます。

平成30年度予算編成に向けた教育施策に関わる協議

- 猪股町長 それでは、平成30年度予算編成に向けた教育施策に関わる協議について、教育委員会の方から説明をいただきます。

教育総務課、生涯学習課、体育振興室：資料説明

- 早坂教育長 質疑はないんですけども、加美町の課題として、特に子供たち、今回、議会でも話題になりましたけれども、子供たちの学力向上ということがありました。それから、それにかかわる部分として、原因をいろいろ考えていくと子供たちの不登校ということ原因の一つかと思えます。子供とかかわる先生方が、もっと時間的にも精神的にもゆとりを持って授業の準備をしたり、子どもに関わったりと、学校での自助努力もあるんですが限界がある。教育委員会、教育行政として、何か伏線を張る方法を考えていかなければいけないと思っています。その一つとしてみやぎ心のケアハウスという補助事業なども利用し対応していきたいと思えます。
- 吉田副町長 町長の話でもありましたが、議会で加美町の子供もたちの成績についての質問は毎年出ています。毎年、具体的な数字というのは公表されないの、このことについて毎回質問されて毎回具体的なところは答えられずに、大体の町の全体的な感じですというところで終わるんですが、向上委員会、具体的にどうやって学力の向上、定着のためにどうするのかという具体的なことを聞きたい。新聞でも学び支援事業については、なかなか人が集まらずマンネリ化しているんじゃないかと、それから学校図書については年々予算化して増やしている状況ですけども、実際、具体的に子供たちが読書する量とか例が何かあるのでしょうか。ただデータもなく、いつも二・三十年前の古い本しかないの、読まないんですというだけで予算を増やしていくという事は、かなり難しいと思しました。

○早坂教育長 これまで学力向上について、課題として児童の家庭学習の時間が短いということ、授業が分かる、よく分かるという個人差もあって。その中で家庭学習の習慣という事での学び支援、あとは指摘もありましたがマンネリ化しているんじゃないかという話もありましたけども、学び支援事業そのものは、即、学力向上という事ではなくて、子供たちの学習習慣の定着、そして地域の人たちとのかかわりながら、地域コミュニティの育成ということもあり、もともとの趣旨はそういうことでありまして、それは、つまり今現在、年々参加者は増えてきているんですが、大体、固定の子どもたちで、新たな子供はなかなか増えないという事と、本当は来てほしい子供、なかなか学習習慣のついていない、本当はこういうところで学習して学ぶ喜びを味わってもらって家庭学習を増やして欲しい、そういう子供たちがなかなか来てくれない。その辺は、学校で勉強なさってさらに増やしていくしかないのかな。もうひとつ大きいのが学び支援で、保護者のアンケートなんか見ても、学び支援員の人たち、あるいは相談員の人たちが、その日のスタートに子供たちに話をするんですね。その中で、自分の夢だったり、自分の小学校の時、中学校の時の話や、今こういうことを目指して頑張っているということ。そういうところから、子供たちがいろんな人とかかわって、いろんな話を聞いて、学ぶことのきっかけを味わいつつあるという風には感じています。

それから直接学力向上に結び付く部分で、これまでは全国学力学習状況調査、それから町の学力テスト、それらの結果を踏まえて、各学校独自に自分の学校の調査結果を分析して対策を練って、そしてそれを教育委員会の方に報告という形で行ってきたのですが、やはりそれだけではなかなか効果が上がらない。効果が上がっている学校もあるんですけども全体で視るとそうでもない。それで今回、町として学力向上委員会を立ち上げて各学校の実態だけでなく、中学校区の小中で情報交換して対策などを小中一貫で、義務教育9年間で取り組む。あるいは町の共通の課題もあるとすれば、その部分を町全体で取り組むことも必要なのではないか。学校独自のものを全体でという事で、学力向上委員会というものを立ち上げたいと考えています。

○猪股町長 学力向上委員会としては、小中間の情報の連携というところを。

○早坂教育長 そうですね。連携、さらに分析して対策を中学校区でできること、あるいは町全体でできることがあれば、具体的にそれを考えていきたいという事で今のところは考えています。

○猪股町長 具体的な対策を話し合って、中学区あるいは全体でやっていく。

○早坂教育長 やはりただ話し合っただけではなくて具体的な動きを、取り組みをまずやっていきたいと思います。

○猪股町長 その際に分析する中で、寺子屋については保護者のアンケートをとったんですか。それでどうなんですか。その結果、学習意欲が湧いた、あるいは学習の習慣がついたとか、そういったデータはどうだったんですか。

- 田中委員 習慣というよりは、大学生が話しかけることが、基本的に自分の延長線上にしているということを狙ったということがありまして、いったい何が今の、現在の大学や高校で勉強しているんだ、あるいはどういう風になりたいかということ語ってもらっていたんですね。そのことがきっかけになるかということ、なかなか日々の学習には繋がらないということがあるんですが、ただもう中学3年時に受験を前にして焦っても、小学校のところで取り落としているということがあるんで、中3で割り算ができないといわれても、これはやっぱりもう勉強しなくてはいけないことだと思っただけです。
- 猪股町長 固定化されてるということですが、同じ子供たちが毎回参加している。参加している子供たちと参加しない子供たちの差というのは、何か分析されているんですか。違いとか。
- 早坂教育長 そこまではしていません。
- 猪股町長 ですから、学力向上委員会で小中学校の学校間の連携、その中で具体的な対策を講じて、その前段の分析をきちんとやらないと方向性が見えてこないのでは。
- 学力向上のためにも学習習慣をつける、そのためにも寺子屋へ行くと、それがいづれ学力の向上にも繋げていきたいということなんですよ。そういったところをきちっとデータを取って分析して進めていくことが大事ですよ。
- 早坂教育長 非常に難しいところなんですね。学習習慣が身についたかどうか、それが寺子屋でついたのか、学校でいろんな家庭学習のものを配りながら、啓発しながらいろんな対応しているんですね。そして家庭学習ノート等をチェックして、励ましのコメントを書いたりとか、ある学校では、何時間勉強したかをトータルしてそれを張り出したりとかしているところもありますけれども。
- 猪股町長 寺子屋の事を聞いているのではなくて、いわゆる学力向上のためには家庭での学習が大事だということですね。加美町の子供たちに関しては、家庭での学習習慣が難しいということなんですね。いろんな理由があると思いますが、学力が低いということの理由の一つとしては、家庭での学習習慣が身につけてない、それをつけるために寺子屋をやったり、他の取り組みをやったり。そういった今やっている取り組みの効果はどうなのかということ、そこをきちんと検証することが大事なんじゃないかということをおっしゃっているのですが。
- 早坂教育長 それで効果が出たことが寺子屋で効果があったのか、学校の指導で効果があったのか、両方あると思うんですね。その辺もアンケートをとっても、子供達、保護者にとっても、寺子屋の成果かどうかは難しいところなんですね。両方の相乗効果があって家庭学習が出来上がってきている。
- 猪股町長 行動の併用が起こったかということなんです。学力が向上したお子さんがいたとする、そのお子さんは果たして寺子屋に参加したのか参加してないのか、あるいは、この学校ではこういうことがあったので全体の学力が向上した。相關関

係というのは、今行っていることと体と実際の結果とでどういった相関関係があったかということです。ちょっと大変なんでしょうけれども、やみくもにやって、どれが効果が出たのか、どれが効果が出なかったのか分からないまま、これもしましょう、あれもしましょうでは、あまり効果が出なかったということにもなりかねないので。

○早坂教育長 まず寺子屋の方では目標設定して、アンケートでそれをみているんですね。今回、夏のをみると、小学生はすごく大きな変化はなかった。たぶん時間が増えた、回数が増えたというのは4割ぐらいだと。ただ中学生は7割ぐらい学習時間が増えた、回数が増えたという数字は高くなっている。

○猪股町長 寺子屋に参加したことにより学習時間が増えたというのが7割ぐらい。その子供たちはどうだったんでしょう、成績向上が見られたということまでは。

○早坂教育長 そこまでは見られないです。

○猪股町長 その目的がそこにあるのであれば、成績の申告をプラスしていく。

○早坂教育長 寺子屋の場合には学力向上までは見ていないんです。学習習慣のところまでで、さらにそれによって学力向上まで結びついていってくればなど。

○猪股町長 最終的にはそこに持っていきたいんですね。まあ、学力が全てではありませんけれども、具体的なことを達成していくという、一つの目安ですね、子供たちの成長の。

○鎌田委員 向上委員会って新たな取り組みで、すごく期待できるのかなと私は思っています、今の加美町に限らず大崎、宮城県と基礎は落ちてるといって、はっきりした事実ですね、他県に比べて基本が落ちてる。やっぱりそれを町長も仰ったように、基礎部分のどこが落ちているのか、なんで落ちてるのか、ということ进行分析し、町全体でしっかり実態を把握するということがものすごく大事なのかなと。それを受けて実際に加美町ではどうするのか、家庭学習なのか、授業そのもののやり方なのか、そういうことまで突っ込んで、実際に新たな成果が実践につながることをできればいいのかなと思っています。

そのための人選なのかな、あとその人たちを如何に研修などをさせながら、伸ばしていけるのかなというのがポイントで、すっかり任せるだけではだめだと思う。どのようにして委員会の動き、フットワークと質の向上に繋げていくかがポイントだと思う。

○猪股町長 どういう方を委員としたら良い。

○早坂教育長 今のところ考えているのは、研究主任、あるいはさらに学力向上に関わっている各学校の教師、あとは校長にも入ってもらいます。そういう方向で、まず調査結果から分析ですね。そこからスタートです。

○猪股町長 外部の方は入れずに内部の方だけですか。

○早坂教育長 今のところ外部は考えていません。

○猪股町長 どうなんでしょうか、その点は。内部の方だけでいいものなのですか。

○大場委員長 学力向上っていうのは大事だと思うんですが、私も早坂教育長と雑談で言うんですが、授業も教育委員の方たちで各学校を見て頂いているんですけど、その時は分かる授業は確かに子供たち理解しているんですね。

やっぱり学力向上っていうのは出来る授業なんですね。分かったの方がいいんですけど、果たしてこれがテストとかしたときに出来るか出来ないかということ。出来ると言えば我々も現役の時に、受験勉強の時、確かに授業で分かるんですけども、いざテストとなると書けなかった。テクニックがあるんですね。テストっていうのはある一定のやりかたもあるし、所定の時間内でもやらなければならない。ひとつの訓練もあるかと思うんですね。ですから出来る授業をするためには、まず学校の先生が優秀であることと、予備校や塾の先生の指導から、学習指導面で学ぶ点あると思うんですね。

確かに学習指導要領に基づいて県の指導とかいろいろ文科省の指導とかに従ってやってはいるんですけど、やっぱり学力向上させるためには、鎌田委員がおっしゃったように基礎学力をみっちり叩き込むことがまず大事で、あとは、よそと違う学力をつけるためには、みんなと同じことをしない。私の今までの経験として。加美町の子だからこういうことが出来たんだという何かを生み出すことが大事だと思います。まず先生方が研修をもっと時間を取ってですね、これを言うと働き方の問題で時間ないとか出てくるかと思いますが、子供たちのために学力をつけてあげるといのが、とてもいいんじゃないかなという風に思います。これと同時にプラスしてですね、体力もつけて頂きたいなと思います。

○大宮委員 今の町長の話で外部の人間入れたらということなんですけれども、私は外部でなくてもいいと思うんです。小学校、中学校内の先生たちは、それしか見てないというか、そういうこともあるんで、退職された先生とかもいいと思いますし、あともう一点、学力向上、家庭学習時間がない、少なくなっているというのもありますけれども、昔はテレビとかって一家に1台茶の間にあって、一緒に見ながら、そろそろ勉強しろとかいう、そういう時間を作ってもらえたんですけど、今は部屋ごとにテレビがある、スマホもある、パソコンもある。いろんな情報が揃っている。勉強しなくても部屋にいてだけで勉強していると錯覚に陥っているんじゃないかと思う。家庭の生活習慣、そっちが学力低下につながるんじゃないかと思います。

○吉田副町長 このことについては先ほども申し上げました通り、加美町合併して確か1年か2年の時の一般質問も、加美町の学力がどうも試験で平均より低いです。ずっと同じ答弁をし続けていて、つまり公表はできない。どここの学校が悪いということは出来ません。だから平均を言う。

議員さん、質問した人は、なんとなく納得できない状況で終わってしまう。毎年そういう状況ですから具体的なことは分からない。先ほど町長が仰ったように分析がどうされているのかとか、そういったことが全然。外に出せないのであれば、内部でどれだけ分析して、そのための方策が出てこないと次につながらないと思って。

合併して15年間、同じ質問、同じ答弁の繰り返しでいったら、いつまでもかわらない。ですから先程、鎌田委員が仰ったように、この機会が、学力向上委員会というものが立ち上がって、具体的に本当にそれが実行になるものであれば、期待できるのではと思います。ぜひ、内部の人だけでいいでしたら、徹底的にやっていたきたいなと思います。

○鎌田委員 ちょっと話がずれますが、高校の先生方の話だと、加美郡と旧玉造の子たちが高校に入ってから伸びる。上位に上がってくるのは田舎の加美郡と旧玉造の連中が最終的には上の方に並ぶという実態もあって、ただ古高とか黎明に行く子は良いんですけど、行かない子、ほんとに基礎が定着していない子、全く勉強しない層が厚い現実もあるので、そこの底上げがどうするかが難しいけれども重要なのかな。全くしない子がたくさんいます。でも高校にも入れるといった現実もあって、そういった中でどうやって火を灯してあげられるのかなというのが大事なことで、難しいことでもある。

○猪股町長 古高とかに入れる学力のある子は、高校に入ってから伸びる。ところがそうじゃない子供たち。昨日、宮中に行ったんですが、宮中でも中学校から黎明に行く子供たちが今の3年生では5人くらいいる。宮中で加美町のまちづくりについて授業をしたんですが、非常に反応が薄かったんです。私、今までで初めてなんです。宮中の子供たちは、ほとんど自ら発言しないんです。

そして終わってからお話を伺ったら、実はこの学年は、中学校から5人ぐらいが黎明に行っているんです。だから、そういう意味では学力的にもリーダーがいない状況ですからということだったのですが。中中で5人と、宮中で5人では全然違いますから、そこで学力が落ちてしまう。要するに引っ張り上げる方がいないわけですからね。そういった内容なんですけど、ですからまあ、それもこれも宮中に入れたんでは良い高校に入れないうって思っているのかもしれませんが。宮中でもどこ中でも、しっかりとした学力がついて、古高でもどこでも普通に入れるという風なことが大事なんでしょうね。

○田中委員 一番のキーポイントは幼児教育なんですね。というのは、書く好奇心の醸成だとか、知的好奇心の醸成だとか、やり抜いていく力というのは幼稚園で養われるという結論で、何故かという二つに分けていくと大きな違いが出てくる。そこを本当に先生方、少ない人数で多くの子たちを育ててくださっていますよね。授業参観をしていると。でも、そこも洗い出していけないと、やり抜く力だとか、これどうしてなんだろうという好奇心だとかは、幼児教育で養われるのだという気がしています。

幼稚園入園以前からお母さんが本を読んだりしてあげたことは、記憶に残っているので、必ずしも小学校からではないと思います。ですから、幼稚園から小学校へというのは結構重要なかなと思います。

○猪股町長 おっしゃるとおりですね。この件について、何かありますか。

- 早坂教育長 確かに幼児教育が非常にいいとは言われてますね。今回は幼児教育について具体的な事は何も話してはいないですけどね。
- 猪股町長 特に加美町も片親世帯が増えているんですよ。そういったことも負の連鎖を断ち切らなくちゃならないので、鎌田委員もおっしゃるように、どのマップをいかに敷いていけるかでしょうね。
- 吉田副町長 私は図書購入費予算の件について、審査をする側とすれば、データがなくて、予算の意向を聞いただけでは、学校ではどうなっているのか。
- 二瓶教育総務課長 図書の利用データを取っている学校さんと、取っていない学校さんがある。

取ってる学校は、こういう品番何冊以上借りている人は誰々ですよと、図書室の前に貼り出してるようなところもございますし、前の校長先生がいらっしゃるのに申し訳ないんですけども、図書室自体に鍵がかかってて、図書も何十年か前のものですけども、新品のものという状態のところもあるし、図書室を利用させるのではなくて、各教室のフロアで自由に貸し出しをしているという学校さんもいらっしゃいます。

今年度から図書館活性化の3カ年というのを策定したのですが、基本は先生方が多忙であるということで、その図書の貸し出し等をいちいち集計を取ったり整理をする時間がほとんど取れないというのが実態だということで、今年古い図書を、教育補助員を利用して整理して下さいとお願いして、ほとんどは夏休み中にやっていただきましたし、補助員だけでなく、図書担当の先生はもちろんだけれども、それ以外の先生方もみんなで手伝って図書の整理をしてくれたということで、教育長から図書館を活性化したいという思いは、学校の現場にも伝わってきはじまったのかなあという感触は持っています。

今後ですが、データ管理を人でやるのは難しいだということで、コンピュータで整理をかければ、いつ何の本を借りたというのは瞬時ですてきますし、そういったもので整理すれば、どれくらい図書が借りられているかというのもデータ化できるというふうに考えておりますので、その効果というのはもうちょっと時間をかけてみる必要があると思っております。

- 吉田副町長 誰が何を読んだかというのが目的じゃなくて、みんなが本を読みたいという気持ちにならないと、データベースが目的じゃなくてね。図書館はインドアランドなんだから、そこのところでも楽しめるような、子供達がそれこそいろんな事を育む、体を育む、心を育むというアウトドアとインドアという抽出というのは大事なことなんだけど、本を読んで楽しいと思えるような事を何かされているのかということです。
- 早坂教育長 結局、どういう本がある。あまり利用されていない。図書館の経費をみても、子供が行ってみたいなという、子供を引きつけるような、そういう本がなかなか出来ていない。

先生方は担任をしながら授業の準備をしながら、あるいは授業の合間にやってる。図書の担当の先生はいるんですけども、やはりそれが優先ではないんですよ。最後の仕事になってしまうので、例えば中学校ですと図書委員がいて、軌道に乗れば子供達も活動できるんですけども、今、加美町の実態を見た時に、何校かはすごく熱心な先生がいて、小学校も中学校もきちんとやってくれています。ただ、そうでないところが多いので、まずは、実態を調べようということで調べたら、非常に古い図書が多かった。まずそこから、図書の入れ替わりをやってこなくちゃならなかったんですけど、やられてなかった。だからマイナスのスタートなんですね。まずとにかく、図書館として継がれるべきものを継がれましょう。やはり、図書館の運営、子供達が行きたくなるような、という事も考えていかなきゃならない。学校の教員だけではなかなか限界があるのかなあと、それで、町の図書館の司書の人と連携をはかって、応援して行って、魅力的な運営をして行って、そして子供達に図書館でいろいろな本とのふれあい。そして、自分で調べものしてでもいってもいいでしょうし、そういう魅力的のある図書館にするためのステップなんですね。そこに、時間とお金がかかるのかなあと。ゴールはそこなんですけども、今、その途中の経過で取り組んでいるという段階ですね。

小野田中学校が多分一番早くスタート出来るのかなあと思っているんですけど。スタートできる状態まで行ってると思うんですけど。それを楽しみにして。それを、他の小中学校においても、やはり図書館の機能、実際そこに行けばいろんな本との出会いがある、そういう場にしたい。今向かっているところですね。

- 猪股町長 地域人材も活用しながらね、先生方は、自分たちでやろうとしないで、いろんな人の力を借りながらね。
- 早坂教育長 そして今図書館の方でもブックスタート始めますよね。幼児期からとか、親子で本に触れ、親が読んで聞かせれば、子供が小さい頃から習慣になってくると思うんですよ。そして、幼児、小学校、中学校、その子供達が成人になった時に、自分から図書館に足を運ぶように、そして親になっていい循環の場が出来ればなあと、最終的には思うんですけどね。
- 二瓶教育総務課長 小野田中学校がこれまで図書室に鍵がかかってて、全く開けてなかったということで、この度、活性化事業ということで、いろいろ支援をした結果、そもそも図書室を開けていないので、図書委員というのがなかったの、慌てて図書委員会を立ち上げて、本の整理をしたんですけど、残った本が2割か3割だったところでしたので、夏休み後には図書委員会の子供達で図書の貸し出しをしたいというところまでは、聞いているんですけども、実際いつごろからまでは確認していない。
- 猪股町長 学力の方に戻りますが、小野田中学校の英語の先生から、小学校段階でリスニングを取り入れて欲しいという要望があったんですけども。とっても大事なことなので是非検討して頂きたいんですけども、発音と文字との関係を全くわから

ないで中学校に入るんですけど、ただ、Aという字を「エイ」と発音する時と「ア」と発音する時がある。例えば「アップル」例えば「エイト」と発音する時とルールがあるわけですよ。

ルールがあって、たぶん皆さんルール学んできましたか。きてないですよ。僕ら当然知っておかないとスペル書けないんですよ。読めないんですよ。そういう基本的なところでつまずいちゃってるんですよ。それが中学校の英語教育につながるかっていうと、おそらく今の状況ではあまりつながっていないんじゃないかと思うんですよ。

そういった意味から中学校の先生と県と連携して、中学校の先生の中でもそれに気づいて先生がどれだけいるか。意識の高い先生はきちんと理解している。妻も中新田中学校にたまに行っていますけれども、はっきり言って先生方はわからない子に対して教え方が、先生方がわかってないんだと思うんです。そういう事を含めて、先生方のボトムアップするためには、わからない子にどうやって教えるか、実績のある先生方がいるはずなんですよ。どこの学校でもどの先生もできるようにしていくのが、まあ、英語に限らずですがだと大事と思います。

- 大宮委員 生涯学習課の方ですけども、本田学芸員や畠山学芸員は後5、6年しかなく、後輩に教えていくという時間もほとんど少なくなっているということで、大変心配されているので、その辺を何とか早めにしていっておかないと駄目なんじゃないかなあと心配しているんですけども。
- 佐藤総務課長 学芸員の方について、教育委員会さんのほうからいろいろ話を頂いて、今年、学芸員を一人採用していて、ただ、発掘調査の方も、文化財関係の発掘調査もあるということで、そちらが主となりますけども、今、お話し頂いたように学芸員の方も年齢的に上がってきてますので、時期的な事も考えて検討していきたいというふうに思います。
- 猪股町長 1名学芸員枠と行政職の枠でも学芸員が1人合格していますので。
- 大宮委員 加美町の文化財とか子供達にしっかり教えてあげられるような体制を作っていないと思います。
- 大場委員長 みやぎの子供の心のケアハウスですが、最近、不登校、そういったものが多んじゃないかな。なかなか学校でも解決できないこともたくさんあるかと思えますけど、これらについてですね。即開設して頂いて一日も早くやっていただければと思います。私も委員会で申し上げたんですけども、いじめの問題。まあ、いじめは全くないわけではないので、加美町ですね。町民課とタイアップすれば、私も人権擁護もやっているで、そこに相談があれば、要するに一番大切なのは相談する力なんですよ。自殺するとか、追い込まれる子って、相談する人がいないんですよ。話しやすい人うんぬんですよ。学校にも言えない、友達にも言えない、親にも言えない。そういった意味でいろんな、親の立場からでもなんでもいいですから、そういうものを教育員会からだけでなく、あらゆる機関とタイアップしてですね、

せっかく開設して改めてここにケアハウスが、開設するようですけれども、あらゆる所に子供が話しやすい場を作ってあげるのも、一つの解決策ではないかと思っております。この中に家庭訪問とか教育相談とかいろいろあるかとは思いますが、なかなか問題のある子に限って、家庭に行けば、なかなか家庭で会えない状態が多いのではないのかと思うので、できれば、こういう家庭の中で町長さんがご指摘ありましたけれども、家庭や母子家庭、そういった家庭がだんだん多くなってきている、どちらも働いていて、子供の事もなかなか考えられない、また、そういった方も社協なりなんなり、相談の窓口、そういうの全部連携していった方が、バラバラに活動するよりも、どこに行ってもいいよというような、そこに行けば必ずそういう問題があるんですね。その辺が連携をとられたらどうなのかなというふうに思います。

○猪股町長 子育て支援室との連携は、当然これは今までもやってきたんですね。

○二瓶教育総務課長 家庭に問題がある、いわゆる要支援の家庭は、定期的に会議を持って、どういう支援をしていくかというのは、話し合いはしています。

学校サイドからの要請で、問題のあるようなものを、子育ての方で指導なり改善を促してほしいというような事はあります。

○猪股町長 人権擁護委員との関わりというのは？

○二瓶教育総務課長 直接はないですね。

○猪股町長 様々な方々にも連絡してお力になってもらってですね。

○早坂教育長 これから、このケアハウスをやろうとしているわけですがけれども、果たして、基本的にいろんな関係機関との連携もありかとは思いうんですね。今、スクールソーシャルワーカーを加美町で二人お願いしてますけれども、われわれも、そういう人たちとも連携を図っていかないと、例えば、家庭訪問をしようと思っても結局、親御さんの意識がなかったり、来られたら困ると、子供も会いたくないという場合も、結局行ってみても意味がない。そういう頑なに全く接点がないところに、誰か接点を持つとした時に、民政委員さんとかあるいは保健師さんというような方とやっぱりきっかけを探しながらやっていかないと、なかなか出来ないと思うんですね。そういう意味では、今ある連携を更に連携を図りながら進めていかないと感じます。

○猪股町長 来年4月にやくらいのボルダリングがオープンします。これは、宮城県で初めての室内の公共のボルダリング施設でありますけれども、ぜひ、有効に活用していただきたいと思っております。ボルダリングの一番の魅力は達成感だと思うんです。

いろんなボルダリングの活用の仕方があると思うんですが、不登校などにも活用できるかもしれませんね。一つの判断力も大事なんですね。どのホールドをつかむかどのホールドに足をのせるのか、ひとつの壁にいくつかのそういうのが、コースがあって、難易度があるんですけど、難易度の易しいものから、ひとつひとつ達成感を生み出す。非常に教育効果があると、まずやっぱり加美町の子供達に使って

欲しいですね。もちろん、よそからも来て欲しいのですが、その辺りもお考えいただきたいと思います。

○吉田副町長 体育の授業とかという、学校で使うことはないでしょうか。触ってみたいことには。

○猪股町長 授業の中で活用するというのも可能であると思いますね。何か抱き合わせで、薬菜に行ってボルダリングをして、みんなが触れられる機会が必要ですよ。どうぞ自由にやって下さいといったら、お母さんお父さん忙しくて、時間ないなっというふうになるかもしれないですね。

○田中委員 有料ですよ。

○猪股町長 有料です。

○鎌田委員 小さい頃から始めた方がいいですよ。中学生になってからだだと厳しいところも。

○猪股町長 そんな事はないです。いやいやそんな事はありません。何歳からでもいいんです。60からでも。

○吉田副町長 カヌーより最初にオリンピック選手が生まれるかもしれませんよ。

○猪股町長 県から申し込みがあり、7月27日、28日とここで東北大会、ミニ国体を開催させて欲しいという正式な申し込みが県の方からありました。

○吉田副町長 ボルダリングの公の指定管理公募するところに入ってますので、7月の国体の予選を開く予定ですから、そのことも加味して計画を作ってくださいということになったんですね。

○猪股町長 その運営を指定管理にしますので、その募集もこれから間もなくしますので、是非教育に活かしていただきたいと思います。あとは、どれだけ予算が要求額が増えるかわかりませんが、何ぶん今年度当初予算134億で組んだんですけども、来年度は上限を130億円とする。

○田中委員 今年の生涯学習委員の研修会に、私と大場先生にお呼びが掛かって、行ったのですが、文化センターの小ホールの方で、入ってみたらびっくりしたことに、スカスカなんですね。地域ごとに79人。その人数より少なく。結局皆さん愚痴をおっしゃるわけですよ。やにむに引き受けたので、何をどうしたらいいかわからないというわけですよ。生涯学習委員ってそうなんですけど、いろんな仕事がいっぱいあって、退職した人たちはすごく忙しいんです。

私の周りでは、「あっ、その日駄目」「この日は大丈夫だけど、午後から駄目」とかっていう忙しい人がたくさんいて、昨日より今日、今日より明日。新しいことをしたいとか、自分が楽しいことをするためにしなければならないと考える人が、増えれば増えるほどその事が子供達にいい影響を与えると私は思っているし、出来やすい環境なんじゃないかなあと思うんですが、例えば学校の図書館も必ずしも読み聞かせの人じゃなくても、誰かがいて、読んであげるよっていうきっかけをずっと作っていくという、動く大人がいてくれると、すごく子供達にはいい影響がある

んじゃないかなっていう、そういう町になりたいなあと思っています。

○鎌田生涯学習課長補佐 30年度から3年間、新しくなりまして、新田新一郎先生に来て頂いて、第1回目をしたと思っておりましたので、よろしくお願いします。

○佐藤総務課長 ありがとうございます。それでは閉会にあたりまして、教育委員の方から、閉会の挨拶をお願いいたします。

○大場委員長 30年度の予算編成の教育施策に関する協議という事で、いろいろご意見なり、いろんなお話しが出たかと思います。

集約してみますと、加美町で育った子供達をどう育てあげるかっていう事ではないかなあと思います。将来を担う人材をどのように私たちが守ってあげて、どうやってあげるかという事だと思います。子供の権利というと、子供の権利には4つあるんですね。一つは生きる権利、二つは育つ権利、三つは守られる権利、四つはいろいろなものに参加する権利という。こういったものを我々大人が子供達に対してきちっと参加し、そしてちゃんとした教育をされた子供達が、世の中にでた時に、加美町の教育は違うなと言われるようにしたいと思います。

これからも、皆さんの力でいい方向にもっていきたいと思います。よろしくお願いいたします。ありがとうございました。